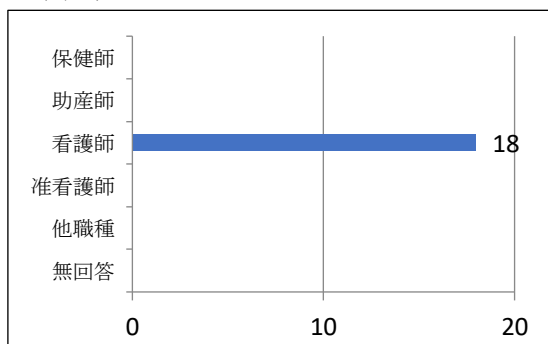


3.災害看護委員会

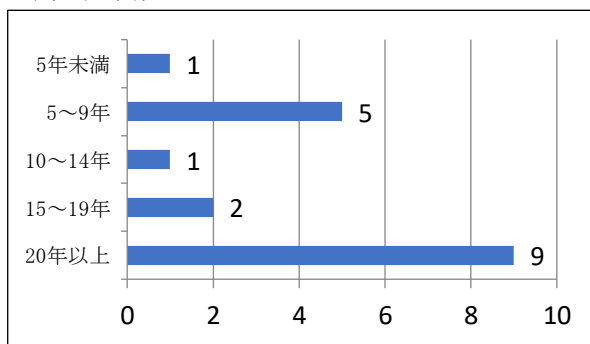
研修名	1)災害看護受援ガイドライン研修	
開催日時	令和5年8月11日(金)13:00~14:00	
受講者数	19名(会員19名) 集合:14名 オンライン:5名	定員40名
ねらい	①応援・受援の基本的な考え方が理解できる ②平時からの備え～発生時の体制を考えることができる	
講師	高知県立大学 看護学部 教授 竹崎久美子	
内容	広域自然災害 平時の備え 医療の継続 受援体制	講義

1,アンケート結果 出席者: 19名 アンケート回収:18名 アンケート回収率: 94.7%

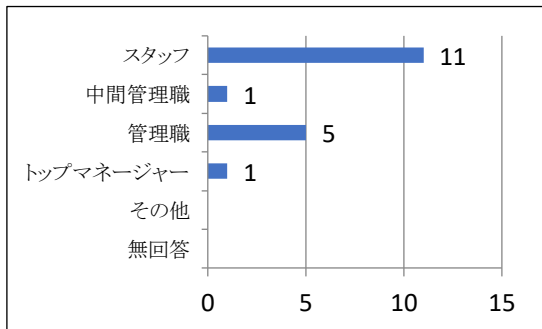
1)職名



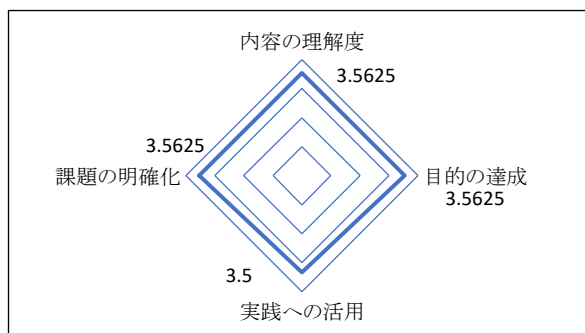
2)経験年数



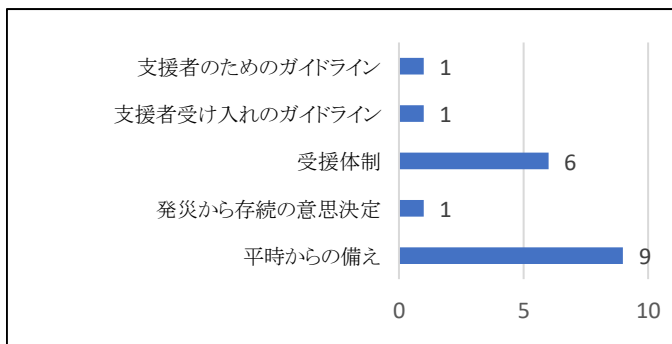
3)職位



4)内容理解,目的達成,活用度,課題の明確化



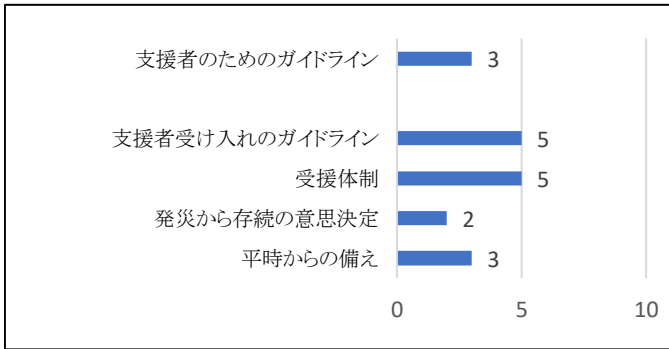
5)最も理解できた項目



◆理解できた理由(その理由)

- ・災害時の自施設のことしか、考えていた。
- ・支援を受けるための指揮が必要なことなど、分かりやすかった。

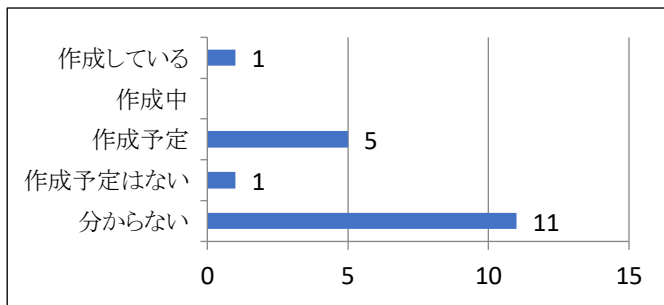
6) 特に難しかった項目



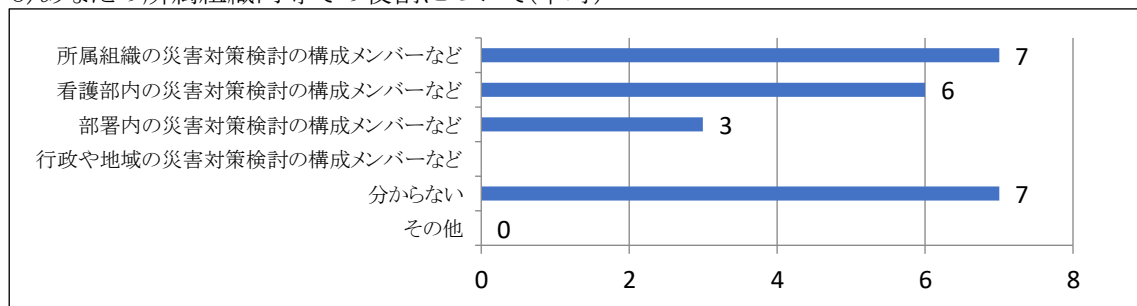
◆難しかった理由

- ・自身の所属先が施設ではなく管理者でないため、自分に置き換えて考えることができなかった。
- ・現在の業務内容について分析が必要
- ・職場で話し合いがないので知らないことが多かった。
- ・現場での同士のコミュニケーション、連携が必要になってくる。

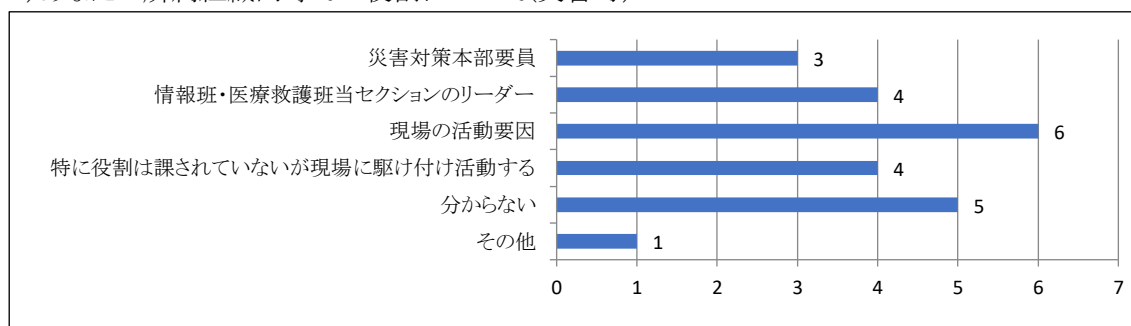
7) 受援マニュアルを作成しているか



8) あなたの所属組織内等での役割について(平時)



9) あなたの所属組織内等での役割について(災害時)



2. 意見・感想

- ・自施設での役割に活かしていきたい。

3. 研修担当者コメント

今回の研修でマニュアル作成の意識付けができ、イメージづくりに繋がり、自施設の課題や今後の方向性が明確になったと考える。

今年度はハイブリット研修で開催したが、受講者数が19名と少なく、今後の課題である。次年度は講師と災害看護委員会委員の協力を得ながら、録画配信等を検討し、受援ガイドラインの周知と各施設でのマニュアル作成の促進に努めたい。